



自分に負けない「自分」になるために

校長 小樋山 寿幸

49 回目の運動会を迎えます。声や鳴り物の音が体育館に響き渡っています。応援団リーダーの練習も熱を帯びてきています。そして、スローガンも次のように決まりました。

燃えろ勇気！力を合わせて！！勝利をつかめ！！

運動会は、赤白のそれぞれの組に分かれ優勝や応援賞を目標に、個人種目、団体種目、応援合戦などで競い合います。競い合うときに、「あともう一步」「あともう少し」の気持ちを後押ししてくれるのが、仲間の声援です。その気持ちが、自分の体を動かしてくれます。仲間の存在を強く感じさせる瞬間です。仲間の声援のほかに、そのような気持ちを持たせてくれるのが、競い合う相手です。競い合う相手がいるからこそ、自分の持っている力を超えて発揮することもあります。結果として、競い合う相手との間には勝敗はつきます。しかし、その結果をきちんと受け止めることも自分の心の成長につながります。

さて、競い合う相手は、本当の自分の相手でしょうか。いえ、そうではありません。本当の自分の相手は、「自分」です。「あの子には勝てないから、まあいいや。」「どうせ、勝てないし・・・。」と思う自分なのです。このように思う時点で、自分に負けていると言えます。

そこで、「自分に負けない『自分』づくり」をするには、どのようにすればよいのでしょうか。私は、次の4つが大切と考えています。「目標達成サイクル（1～3）＊「かしこく」につながります。」とそれを支える「マインド（4）※「たくましく」につながります。」です。

- 1 「どうなりたいか」の目標を持つ。
- 2 繰り返し練習する。（特に、うまくいかないところを繰り返しやる。）
- 3 練習しているときや練習し終わった後に、どうしたらもっとよくなるか解決策を考え、決めて、やってみる。（解決策を考えるときに、クラスメイトやおうちの方のアドバイスなどの情報が役に立ちます。）
- 4 最後までやり抜く。（時間が限られているときは、時間いっぱいまで。）

うまくいかないことや失敗などは少なからずあることです。それをどのようにしたら少しでもうまくできるか、失敗を最小限に抑えることができるかを考えることが、自分に負けない自分をつくるチャンスでもあります。その時、私たち大人が丁寧に教えたり、助けたりすることも必要です。子どもたちをよく見、声を聴き、子どもが持ち前の主体性を発揮できるよう、サポートしていきます。一緒に取り組んでまいりましょう。どうぞ、よろしくお願いします。

「東小つうしん（巻頭ページ）」に関するお問い合わせは、校長（電話：42-2674）へお願いします。

第 1 回 「校章のお話」



「五葉のいちよう」と「円」が校章を形作っています。上部のいちよう以外は、非対称のデザインとなっています。そして、中央に「五泉」の文字。

「校章きまる」と題された東小だより（昭和 52 年 3 月 14 日発行）で、デザインの意図が次のように述べられています。

- 1 市の木であり、校庭の植樹や子ども達の親しみやすさを考え、いちようの葉を本校の象徴とした。
- 2 いちようを五葉で構成し五泉の「五」にちなませた。
- 3 いちようの葉で作られた形（文字の地）は「東」を暗示した。
- 4 いちようを囲む園は東の日輪を表した。

また、同じだよりでは、「校章に託す願い」が掲載されています。（※ 当時の原稿が縦書きでしたので、そのように表示しました。なお、原文ママです。）

東小で生まれ行く
子ども達の魂が、
いちようの若葉の
さわやかに、
秋の日に映える
その美しさに、
鉛色の空を
つきさすように立つ
その木々の雄々しさに、
あやかれと願う

東小で磨か行く
子ども達の知性が、
東の日輪の
新しい望みと輝きと、
おおらかさを
求めてやまないことを願う

東っ子が、「新潟五泉」という雪国の地に、さわやかに、雄々しく、そして知性豊かに成長していくことを願ってやまない思いが語られています。

このように、「校章」は、五泉東小の昔と今と未来をつなぐ「伝統」の一つです。校章の「由来」を知ること、自分が「伝統をつなぐ東っ子」の一人であると自覚することになります。お子さんと校章のことを話題にしてみませんか。



校章が出来上がるまでの過程は、職員室前廊下に掲示しておりますので、お時間のある際にご覧いただけましたら幸いです。（このページへのお問い合わせは、校長へお願いします。）



東小スナップ

運動会直前。14 日に行いました全体練習から「全校綱引き」をスナップ！

○大綱を引っ張る 1 年生の子どもたち。審判は教頭先生。



○センターラインを引き、準備万端。



○入場のようす。



「アルビレックス新潟レディース」サッカー教室をスナップ！

アルビレックス新潟レディースに所属する、杉田亜未選手、園田瑞貴選手らをお迎えし、4年生の子どもたちのサッカー教室を開催しました。

○1対1でボールを取り合う様子



○チーム戦の様子。レディースの選手も加わり、白熱したゲームになりました。

